

教科等研究会（中学校音楽部会）

令和5年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

主体的・対話的で深い学びを実現する音楽科授業の創造

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	場所	内容	期日	場所	授業者	期日	場所	内容
6/9	11人	嘉島中学校	8/8	嘉島中学校	講話	9/28	甲佐中学校	甲佐中学校 教諭 藤堂亜里砂	1/26	嘉島中学校	レポート 研修 1年間の まとめ

3 研究の概要

(1) 研究の内容

本年度のテーマは、昨年度を引き継ぎ、音楽科の授業における「主体的・対話的で深い学び」を中心に据え、授業の展開や実践における工夫を研究することとした。特に、感じ取ったイメージを基に協働する活動を充実させることで、協働する喜びを感じる音楽科授業を考えることにした。

研修では、音楽科の授業における「主体的・対話的で深い学び」とはどのようなものか研究するために、講師を招聘して講義を受けたり、歌唱を題材として授業研究会を実施したりした。

① 第2回 講話（8月8日）

講話「中学校音楽科に求められていること」

講師 井手口 哲子 氏（熊本県立教育センター指導主事）

音楽科授業の実践のために、講義として「学習指導要領の理解」、実習として「合唱指導の実際」、そして2学期の授業研究会に向けて「学習構想案の検討」を行った。

講義では、平成25年度中学校学習指導要領実施状況調査を基に、中学校音楽科に求められていること、音楽科で育成する資質・能力、音楽的な「見方・考え方」など、具体的な事例を交えた内容を教えていただいた。

また、実習では、参加者を生徒に見立てて、共通教材を歌いながら、歌唱のポイントや活動の行わせ方などを教えていただいた。

さらに、2学期の参観授業に向け、学習構想案の検討を行い、題材の目標の絞り方や本題材で働かせる見方・考え方のポイントなど、学習構想案の立て方を教えていただいた。

具体的な事例が多く、授業の流れを想像できる内容で大変分かりやすく、すぐに実践できる内容であった。

② 第3回 授業研究会（9月28日）

題材名「仲間とともに、表情豊かに合唱しよう」（出版社「教育芸術社」）

（主教材：「ふるさと」高野辰之作詞／岡野貞一作曲）

授業者 教諭 藤堂亜里砂（甲佐町立甲佐中学校）

授業を見る視点を、①主体的・対話的で深い学びを実現する授業となっているか、②曲想と音楽の構造とのかかわりを理解するような授業となっているか、の2点とし、授業研究会を行った。（授業研究会については、4 実践事例で報告。）

③ 第4回 実践報告会（1月26日）

各校で行った、実践の報告を行った。研究テーマである「主体的・対話的で深い学び」に沿った内容で、グループ活動や教材、ワークシートの工夫等についての報告があった。

グループ活動では、意見の交流を促進し、生徒たちが音楽に対する理解を深め、意欲的に学習に取り組むための工夫や実践が各学校で行われていた。

例えば、個→グループ→全体の意見交流のステップが作られ、教師は意見交流を個→グループ（ペア）→全体の順に進められていた。また、個々の生徒がまず自分の考えを整理し、それを小グループで共有し合い、最終的にはクラス全体で意見を発表することで、異なる視点からのアプローチが促進されていた。

教具の工夫としては、人体模型や仮面を用いて、息の流れや響かせる方向を用いるなど、音を「見える化」して生徒に説明した実践が報告された。

(2) 成果と課題

① 成果

本年度は講話として、中学校音楽科に求められる課題や音楽科で育成する資質・能力、音楽的な「見方・考え方」などを学ぶことができた。また、歌唱のポイントや活動の行わせ方など、具体的な事例について体験を交えて学ぶことで、すぐにでも授業に活かせるヒントを得ることができ、大変有意義な時間となった。

参観授業では、どの学校でも取り組んでいる合唱コンクールを単元として、パートでの合唱練習の工夫やICTを活動した歌唱の振り返りなどの視点で授業提案がなされた。日頃から生徒と教師が一緒になって歌う雰囲気の中、より良い合唱を目指す姿が印象的であった。また、授業研究会では、効果的なグループ活動や指導上の発問の仕方などについて、議論を深めることができた。



② 課題

参観授業では歌唱を行ったが、生徒たちの歌唱力差への対処の仕方が話題となった。生徒ごとに必要な歌唱指導をいかに行うか、具体的にはテクニカルな練習とボーカルトレーニングを一斉で行い、個別のフィードバックセッションで生徒にアドバイスを行うなど、授業の中に意図的に組み込んでいくことが大切であると分かった。今後は、授業計画を見直し、効果的にICTも活用しながら、さらに研究を進めていきたい。

4 実践事例

(1) 授業の概要

題材名「仲間とともに、表情豊かに合唱しよう」（出版社「教育芸術社」）

（主教材：「ふるさと」高野辰之作詞／岡野貞一作曲）

授業者 教諭 藤堂亜里砂（甲佐町立甲佐中学校）

① 授業概要

合唱コンクールに向け、課題曲「ふるさと」をパートや全体で練習し、録音した歌声を聴いたり、楽譜に記載された記号等から表現方法を考えたりしながら、より良い音楽表現を工夫する。

② 授業研究会で出された意見から

- パートで仲良く話し合い、表現についてしっかりと考える雰囲気ができていた。個で考える時間と班で考える時間、全体で考える時間を設定することで、考えを共有し、さらに深めることができると思った。
- 教室の掲示物が見やすく分かりやすかった。日頃から音楽の「味方・考え方」のヒントが示されており、音楽を考える流れができていたと思った。
- グループで対話する時間やポイントを決めておけば、より円滑になると思う。



(2) 学習構想案

第2学年1組 音楽科 学習構想案

日時 令和5年9月28日(木) 第5校時

場所 音楽室

指導者 教諭 藤堂 亜里砂

1 題材構想

題材名	仲間とともに、表情豊かに合唱しよう (教材:「ふるさと」 高野辰之作詞 / 岡野貞一作曲)			
題材の目標	<p>(1) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身につける。 〈知識及び技能〉A(1)イ(イ)ウ(ア)(イ)</p> <p>(2) 音色、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。 〈思考力、判断力、表現力等〉A(1)ア</p> <p>(3) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて感心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組む。 〈学びに向かう力、人間性等〉</p>			
題材の評価規準	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
	①曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。 ②創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身につけている。	①音色、旋律、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて、思いや意図をもっている。	①曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わり、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい歌唱表現としてどのように表すかについて感心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	
題材終了時の生徒の姿 (題材のゴールの姿・期待される姿)				
仲間と協働的に取り組みながら、これから学ぶ日本の曲に関心を持ち、歌う喜びを味わうことができる生徒。				
題材を通した学習課題 (題材の中心的な学習課題)		本題材で働かせる見方・考え方		
曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解し、思いをこめた合唱をしよう。		音楽に対する感性をかせ、歌詞や旋律、強弱等、それらを働きの視点で捉え、自己のイメージや感情などと関連づけること。		
指導計画と評価計画 (4時間取扱い ※本時3/4)				
過程	時間	学習活動 (「問い」を設定しても可)	評価の観点等 ★には記録に残す場面で「具体的評価規準」を記載	
			ICTの活用	
1	1	・歌詞を朗読する。 ・楽譜を見ながら曲を聴き曲想をつかむ。 ・主旋律を歌う。	【態①】 ワークシートの記述・観察	電子黒板 デジタル教科書
	2	・この曲がA~C3つの部分で構成されていることを音楽の流れと歌詞から捉える。 ・パートに分かれ各パートの旋律の歌唱練習を行う。	★【知①】 ワークシートの記述・発言	電子黒板 デジタル教科書
2	3 ※本時	・Aの部分について、歌詞、旋律、強弱がどのように変化しているのか、歌詞を音読したり歌ったりして、音楽や歌詞から気づいたことをワークシートに記入し、グループで意見交流する。 ・音楽や歌詞から気づいたことを手掛かりにどのように歌いたいかを考え、表現の工夫をクラスで集約していく。	★【思①】 ワークシートの記述・発言 ○歌詞、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ、そのことをどのように表現したいかについて思いや意図を持っている。	電子黒板 デジタル教科書 タブレット
	4	・各パートに分かれて音を確認しながら歌う。 ・部分ごとに全体練習を行う。 ・前時の学習から自分たちが考えた表現を創意工夫する。 ・全体の響きに耳を傾け、他者と合わせながら、自分たちの考えた表現を生かして合唱する。 ・合唱の様子を録画して視聴し、自分たちの表現について振り返り、ワークシートに記入して、学級全体で共有する。	★【技②】 演奏 ○創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。 ★【態】 ワークシートの記述・観察 ○曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	電子黒板 デジタル教科書 タブレット

4 本時の学習 (3 / 4)

(1) 目標：歌詞の内容や強弱に着目し、協働的に音楽表現を創意工夫することができる。(思考・判断・表現)

(2) 展開

過程	時間	学習活動 (◇予想される生徒の発言)	指導上の留意事項 (学習の目的・意図, 内容, 方法等)
導入	10	<p>1 ボイストレーニング</p> <p>【チェックタイム】</p> <p>2 めあてを確認する。</p> <p>【めあて】 「ふるさと」の歌詞に込められた思いや情景が伝わる合唱を創り上げよう</p> <p>前時の気づきを共有し、課題を確認する。 ◇自分たちの合唱から思いが伝わってこない。どうしたらいいのかな。</p> <p>【学習課題】 思いや情景を伝えるために歌詞の内容や旋律の動き、強弱に注目し表現を工夫しよう。</p>	<p>指導上の留意事項 (学習の目的・意図, 内容, 方法等)</p> <p>○前時までの学びを振り返り、課題を確認する。 ○本時のめあてを達成するためには、どんなことに気が付いたら良いのか考える。 ○私たちは「ふるさと」の合唱で何を表現したいのかな。(どのような思いを伝えたいのか?) ○どんな表現の工夫があったらいいかな。 ○自分たちの思いをこめた合唱に創り上げる手立てとして歌詞や旋律の動き、強弱に着目させる。</p>
展開	30	<p>【シンキングタイム】</p> <p>3 課題の解決に向けて活動する〈個人〉 歌詞の中で、大切に歌いたいと思う部分や、言葉にラインを引く。 ①なぜそう考えたのか ②どのように歌いたいか、タブレットに記入する。 ペア及びパート内で意見交流を行う。</p> <p>【期待される学びの姿】 歌詞の内容と旋律の動き、強弱の関わりなどをもとに、歌い試しながら、どのように工夫して歌うかについて思いや意図を書いている。</p> <p>【アクションタイム】</p> <p>4 課題の解決に向けて活動する。〈パート〉 話し合ったことをもとに、曲想や歌詞の内容を生かした音楽表現を歌い試しながら表現の工夫をする。 ◇課題を解決するためにどのような工夫をしたらいいかな。</p>	<p>〔個人で〕 ○楽譜（歌詞、旋律、強弱記号など）を手掛かりに考えさせる。</p> <p>【具体的評価規準】観点：(思考・判断・表現) 歌詞の内容と旋律の動き、強弱をかかわらせながら、どのように歌いたいかについて思いや意図を書いている。(方法：タブレット記述・発言)</p> <p>【到達していない生徒への手立て】 ○歌詞の中で大切に歌いたい言葉や、歌詞のまともに注目させ、や強弱を変えて歌うなどしながら、感じ取った雰囲気合う表現について対話し、思いや意図が持てるよう促す。</p> <p>〔パートで〕 ○一人ひとりの発言をもとに、表現を工夫するポイントを焦点化していく。 ○考えたことをもとに意見交流しながら、強弱や発声、フレーズなど様々に歌い試すよう促す。</p>
終末	10	<p>【チャレンジタイム】</p> <p>5 「ふるさと」Aを合唱し、録音する。</p> <p>6 自分たちの合唱を聴き比べる。 ◇もっとこの部分は練習をしていきたい。 ◇自分たちの合唱がより良く変化した。</p> <p>【まとめ】歌詞の内容や旋律の動き、強弱に注目し表現を工夫することで、聴き手に思いや情景を伝える合唱にできた。</p>	<p>○振り返りの視点を示し、最初の曲の捉えからどのように変わり表現の工夫につながったかについて自覚できるようにする。</p>